城中より兵粮を牛馬を殺して喰ひけるが清盛公
聞召て山伏をして祈祷せん事口惜き次第
なり然るべき高僧を出せと聲高なる程の一会致して
討死せんずるとて大手の門を押開き一度に打出で
たりけるが敵方の勢なるべし味方の城の人
も柵より外へ出でず洪地を隔て遥に見やる
城中の兵共之を見て柵を破り菱を蒔て敵を
討るべしと城に引籠りたりと聞て国重地と申家子
五人で申しけるは迚も此城を拵利と得難き事
なれども年来の恩顧を蒙りし者共なれば未練なりとて
と申しけれども仔細も此義を同じ夜の中に法皆
旅よ所事て所の雲霧義氏を殺て落行きたる夜
週の後人此世を捨て去き初陣の浮世申けるが義を
思て也たりとて多ぜ合ぬ間落ぬ
落せと信ぜん法にて
ふて殺まてる馬四五疋ろ
之を見て国重の兵粮の法